



くしま みき

## ◆診療科紹介 臨床病理診断科 九島 巳樹

江東豊洲病院・臨床病理診断科の医師が患者さんを直接診察する事はありませんが、病理診断、細胞診などを行なっています。

当病院では外来や手術室で様々な検査が行われていますが、その一つに病理検査があります。病理検査室で採取された細胞、あるいは内視鏡検査や手術などで摘出された組織・臓器から標本を作ります。

病理診断科では完成した病理標本を顕微鏡で観察して、治療に必要な最終組織診断（病理診断）を行っています。また婦人科領域、喀痰などの塗抹検体や胸・腹水、脳脊髄液、尿などの液状検体、乳腺などの穿刺吸引検体を用いて細胞標本を作製し、顕微鏡で観察して良悪性の判定や病理診断の推定（細胞診）も行っています。

手術時に行なわれる術中迅速診断では、手術中に採取された病変組織や切除断端・転移が疑われる部分などについて、凍結切片の方法で標本を作り、病理検査室に検体が到着後約15分程度で病理診断を行い手術方針の決定に関与しています。



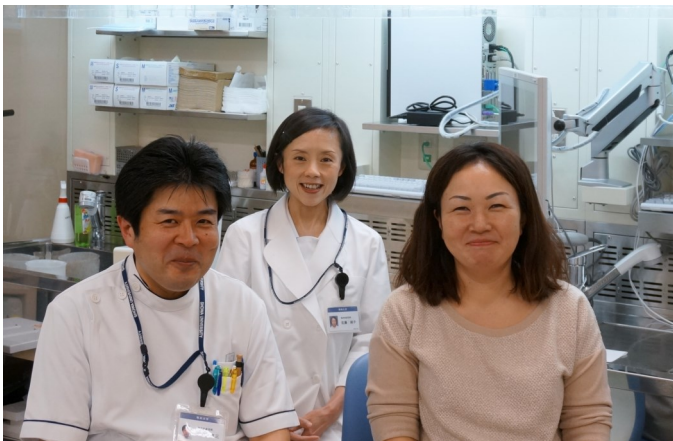
昭和大学江東豊洲病院

### 第10号のトピックス

- 診療科紹介
  - 臨床病理診断科 —
  - 腫瘍内科 —
- ウエットラボ
- 部門紹介
  - ベットセンター —

的確な病理診断をするため、病理専門医および細胞診専門医の資格を持つ病理医（2名：九島巳樹教授、広田由子講師）が細胞診検査士（3名）を含む臨床検査技師と共に働いています。

患者さんとは主治医を介して病気の診断や治療方針の決定、予後の推定などに関する情報を迅速に提供することで深く関わっています。臨床病理診断科の医師（病理医）は患者さんの状態を考えながら、正しい医療が行われるように主治医を含めた担当の医師など臨床の現場に有用な意見を述べ、診療や看護の結果を検証し、常に医療の質の向上に努めています。



一列目右 広田講師

しまだ けん

## ◆診療科紹介 腫瘍内科 嶋田 顕

江東豊洲病院の腫瘍内科の責任者をしております嶋田顕です。腫瘍内科という名前を聞いて多くの方はピンとこないと思います。腫瘍内科が日本の大学病院や一般病院で登場したのもまだ10年ほど前のことです。私が医師になった20年ほど前にはこの昭和大学にも「腫瘍内科」という科は存在していませんでした。現在、昭和大学腫瘍内科教授の佐々木康綱教授の前任先であった埼玉医科大学国際医療センターに臨床腫瘍科ができたのが日本で初めてでした。未だに「腫瘍内科」という診療科がない大学病院も全国にまだ存在しています。



抗がん剤治療支援スタッフ  
二列目左から五人目 嶋田准教授

では、「どういう診療をしている科？」なのでしょう。主な診療内容は「がん」の薬物療法（抗がん剤治療）ですが、がん患者さん本人やそのご家族も含めて看護師、薬剤師、MSW、理学療法士など多くの医療スタッフと協力し全人的な診療をおこなっています。

がん治療の三大治療法は①手術療法、②放射線療法、③薬物療法（抗がん剤）です。手術療法は臓器別専門医が行い、放射線療法は放射線治療医が行っています。薬物療法に関しては21世紀になり飛躍的に進歩してきました。様々な抗がん剤、ホルモン剤、「がん」の特徴に合わせた分子標的薬といわれる新薬が次々と登場したことによります。現在では患者さん個々の状態に合わせた薬物治療の多様化やその副作用管理が必要となっています。

腫瘍内科は他科の先生たちと協力しながら診療しております。現在、私以外に小林、戸嶋、久松の各医師が腫瘍内科として診療にあたっております。がん治療は長期間になります、心配事があればいつでもご相談ください。

## 第2回 心臓血管外科ウェットラボ開催 心臓血管外科 山口裕己

去る1月24日に昭和大学江東豊洲病院 3階会議室にて第2回心臓血管外科ウェットラボを開催しました。医師・研修医のみならず、手術室、ICU、病棟の看護師さん、薬剤師、臨床工学士、リハビリ室、医学部の学生さんなど44名の参加がありました。ウェットラボでは、まず牛の心臓を手に取りながら心臓の弁や冠動脈、大動脈の解剖を学びました。その後、患者さんに移植している人工弁を、手術時に使用する針糸を用いて大動脈弁置換術を行なってもらいました。解剖を理解し、実際に植え込まれている生体弁や機械弁を手に取りそのメカニズムを理解することは、医療従事者全員にとって正確で安全な医療を患者さんに提供するために大変重要であると考えています。これからも年2回（1月、7月）開催します。心臓に興味のある方は是非ご参加ください。



## ◆部門紹介 ベットセンター 山中 竜人

私たちは寝具類やリネン類、白衣等のリース及びクリーニング業務を行っております。御利用頂く方々に清潔な寝具類を提供させて頂き、かつご利用目的に合わせ多種多様な患者依（上依、下依、甚平タイプ）や、検診依などをご提供させて頂いています。また、白衣に関しては常にクリーニングされた衛生的なユニフォームをお使いまたは、ご利用頂ける様に勤めております。



衛生的で安全なリネンをお届けするよう『親切・信頼・清潔』を念頭に入れ会社一丸となり商品の衛生管理に取り組んでおります。清潔・不潔の作業エリアの分離はもちろん、出荷商品の衛生基準を設け定期的に検査を実施しております。

患者さんをはじめ、患者さんと接する方々に安全で快適な商品をお届け出来るよう、洗濯技術の向上・衛生管理の徹底に努めてまいります。

ベットセンタースタッフ一同、皆様のご期待に沿うようにこれからも業務に取り組んでまいりますので、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

かみじょう ゆ み

## 編集後記 上條 由美

昨年の今頃、東京に20年ぶりの大雪が降ったことを覚えていますか？

東京都心でも25センチ以上の積雪を観測し、2週続けての積雪により交通機関などにも大きな影響がでました。「夜の東京雪景色」には独特のものがあります。

暗くなると人も車も少なくなり、都会の喧噪は雪の中に閉じ込められ、白い静粛な世界になります。2015年の冬は、昨年ほどの記録的な降雪はないかもしれませんが、凍結による転倒患者さんは心配ですが、雪が降って非日常的な光景を楽しみにしてしまいます…。皆様もくれぐれも転倒には注意してください。



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲5-1-38

TEL03-6204-6000（代表）

発行責任者：新井一成 編集責任者：長谷川真

